



ユネスコ加盟70周年 ACCUの取組



ACCUが取り組む事業

教職員国際
交流事業



2021 Voice
of Youth
Empower-
ment

Bridge
Across Asia
Conference
(アジア模擬
国連)

高校模擬国
連事業 (全日
本大会・国際
大会)

学校教員に
よるSDGs評
価手法開発
事業



Learning for
Empathy*
Project

HAPPY
SCHOOLS!

ユネスコス
クール支援

ASPnet
Action
Research
Project

学びの共同
体構築支援

SMILE Asia
Project
(母子保健を
テーマとした識
字教育支援)

ASPUnivNet



学校教員による持続可能な未来の担い手を育む 評価手法開発事業

変容を捉え、 変容につながる 評価のカタチ

SDGs時代を生きる学校教員の知恵

川西明徳 GC型校や育む10の力
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26
 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50

未来を共創する公立高等学校

兵庫県立川西明徳高等学校
松井 健太郎

生徒数・児童数	約900名	教員数	約60名
---------	-------	-----	------

兵庫県東部川西市のほぼ中心に位置する創立45年の全日制普通科の公立高校。1学年約280名が在籍し、その約半数が大学・短大に進学する。従来から歴史的におこなわれてきたESDを2017年度から持続可能な学校体制に基とした実践がなされており、ASPnet加盟申請においてはチャレンジ期間を満了で通過し、2020年度時点では本市最大の進級率である。学校の特徴として設置されているグローバルキャリア型校(以下GC型校)では、ESDによる教育活動の両方向付けをおこなう過程で2018年度に3つのポリシーを策定した。その内のキャリアポリシーで定められた「川西明徳GC型校や育む10の力」は、2020年度にはGC型校以外の型校でも育む10の力へとつながった。本事業で抽出した上述の26の評価要素と実践校での10の力は重複していることから、本場ではGC型校での評価に関する実践を共有する。

3つのポリシー「進路スキルポリシー」「生徒一人ひとりの可能性を伸ばすためのキャリアポリシー(以下AFR)」「教育活動の質を高めるためのキャリアポリシー(以下GFC)」を掲げ、「卒業後におけるキャリアアップ・スキルアップ」を推進する。



評価手法の目的と内容

GC型校では、「真正の評価(authentic assessment)」をおこなっている。真正の評価では、知識は日常から切り離されたものではなく、物事や道具との相互作用を含む社会的関係の中で構成されるものとして捉えようとするため、生徒は仕事場や社会生活の場、個人生活の場が想定された課題に取り組むこととなる。よって、選択回答式問題よりも、ルーブリック評価の記述式問題、実践ベースのプロジェクト型学習、パフォーマンス課題(ロールプレイ・プレゼンテーション)に取り組むこととなる。これらの課題で評価する要素は、「川西明徳GC型校や育む10の力」のいずれかに必ず該当するように設計されている。



育む10の力の評価実践事例

育む10の力の項目	実践の概要	評価の観点
1. 自己理解と自己管理能力	自己理解シート作成	自己理解の深さ
2. 学習態度	授業中の発言回数	積極的な参加
3. 主体的な学び	課題の自主的取り組み	学習の自主性
4. 協働的な学び	グループワークでの役割分担	協働性
5. 問題解決力	課題解決のための計画立案	問題解決力
6. 創造力	アイデアの提案	創造性
7. 批判的思考力	資料の検証	批判的思考力
8. 協働的な学び	グループワークでの役割分担	協働性
9. 自己理解と自己管理能力	自己理解シート作成	自己理解の深さ
10. 社会参加力	地域活動への参加	社会参加力

授業設計者は、生徒の学びを促すために、即時的評価(学習の前におこなう評価)、形成的评价(学習中におこなう評価)、最終的评价(生徒の成果物や実践などの総合的な評価)をおこない、学びを通して生徒の自己効力感を育むべく、リフレクションを大切にしている。GC型校でのリフレクションは、生徒個人の記述による振り返りの作業と他者からのフィードバックを意味する。対話よりも公正な場である「書く作業」で思考を促しながら、授業担当者からもフィードバックが得られる機会を設けるようにしている。

評価手法を適用した実践

3年前にもつたGC型校での学びの実践事例は、本校公式HPに掲載している。
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~meiho-hs/GC/GC.html>

2020年度制作物
『変容を捉え、変容につながる評価のカタチ—SDGs時代を生きる学校教員の知恵—』

学校教員による持続可能な未来の担い手を育む 評価手法開発事業

「教育評価事業合同シンポジウム2021」

令和3(2021)年度文部科学省ユネスコ活動費補助金
『学校教員による持続可能な未来の担い手を育むための評価手法開発事業』
ユネスコ加盟 70 周年記念
教育評価事業合同シンポジウム 2021
8/19 (木) 14:00

次期	14:00 開会	発表者 紹介	事業 発表	質疑 応答	16:00 閉会
----	-------------	-----------	----------	----------	-------------

事業発表

- 『教員・学校・地域間の相互エンパワメントによる「SDGsカリキュラム」の展開と評価方法の開発事業』
宮城教育大学 教授 市瀬隆紀氏 他
- 『児童・生徒と教師の「ESDに対する知識・態度・行動」に関する質問紙調査』
東京大学 教授 北村友人民 他
- 『学校教員による持続可能な未来の担い手を育むための評価手法開発事業』
【小学校分科会】
奈良市立平城小学校 新宮清氏 (児童/生徒評価)
横浜市立市場小学校けやき分校 壺津宏美氏 (学校/教員評価)
【中学校分科会】
箕面こどもの森学園 佐野純氏 (児童/生徒評価)
京都市立七条中学校 野川理歩氏 (学校/教員評価)

■ ご参加のお申し込みはこちら
<https://ws.fornu.net/jaan/53267299/>

■ お問い合わせ
ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) 教育協力部
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32 7F 出版クラブビル
電話 03-5577-2852 / Email: education@accu.or.jp

参加費無料 |
ご応募お待ちしております |

70th Anniversary of Japan's accession to UNESCO
ACCU

教員の変容 → 学校の変容
→ 子どもを取り巻く環境の変容

4 質の高い教育を
みんなに

今年度見られる教員の変容例

- ・ 学年内での**教員同士の相談や調整**が見られるようになった
- ・ 使用する教材作成において、「**〇〇に目を向けてほしいから**」「**△△から、どの方向に広がるか**」「**どう投げかけたら考えるか**」など、**子どもの学びを想定**している。
- ・ ファシリテーターに区役所の方、地域の方など**外部資源とつながることが増えた**。

研修や**学び**において**進んで**申し込む教員が増えた。

70th Anniversary of Japan's accession to UNESCO
ACCU

ESDにおける教育評価をテーマとした事業
を行う2機関*と合同で開催

*①宮城教育大学

『教員・学校・地域間の相互エンパワメントによる
「SDGsカリキュラム」の展開と評価方法の開発事業』

②東京大学

『児童・生徒と教師の「ESDに対する知識・態度・行動」に関する質問紙調査』

ユネスコスクール全国大会

- 2021年11月下旬開催（オンライン、一部対面会場予定）
- ユネスコスクールにおける優良事例の共有やテーマ別研究協議に加え、ユネスコ加盟70周年を記念した特別対談などを予定



参考：昨年度大会チラシ、当日の様子（出典：大会報告書）

青少年の国際交流・グローバルリーダー育成事業



ACCU50周年記念事業

Voice of Youth Empowerment 2021
～地球の未来は、キミが変える～



- 中高生世代のユースが持続可能な未来に向けたアイディア、アクションを英語で発信するプログラム
- 8/22 SDGs Agora (オンライン公開セミナー)
- 11/21 Future Voices (プレゼンテーション発表会)



青少年の国際交流・グローバルリーダー育成事業

BRIDGE Across Asia Conference

アジア太平洋青少年相互理解推進プログラム
—高校模擬国連を通じたアジア5か国間での学びあい—

OPolicy Presentation (8/5)

担当国の情報収集・分析を実施し、方針を決定し発表する

OPair Communication (10/10)

8月から10月にかけて、お互いに連絡を取って学び合い、国際理解を深める

OModel United Nation Conference (10/17)

16か国の大使が議題について議論を重ね、決議案を策定する



